

# 文化・芸術

## 名画の扇

大川美術館展示から

「椅子の画家」といわれる藤井令太郎は、長野県に生まれます。中学校の時、胸膜炎になり2年間の療養を余儀なくされ、その時期に芸術の道を志すようになります。

はじめは、椅子が持つている建築性にひかれモチーフとして描き始めますが、次第に椅子に人間的なものを見いだすようになります。

「形態から見ても人間の五体に相当するものが全部揃つておる、前面あり、背面あり、側面もありで甚だ変化に富んでいるとおもうのである」とは、画家の言葉です。

後年は、武藏野美術大学で教壇に立ち、没後には教え子たちが大川美術館へ来館し、藤井の作品に見入ることもしばしばあったそうです。

本作は、100号の大作です。この絵の前においてある展示室のソファに座りながら、等身大の椅子たちと共にする空間をぜひ味わってみてください。

(池田)

### 「アツカドの椅子I」

油彩 キャンバス  
130・3センチ×162・1センチ

藤井令太郎 (1913-80年)

